

トビウオ通信 (R4 第8号)

https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《令和4年秋季におけるケンサキイカ漁況予報》

山陰沿岸での秋季(9月~12月)におけるケンサキイカの漁況は、①日本海南西海域における資源状況、②高水温帯の分布状況が関係していることが知られています。それらの情報を基に、県内各地におけるケンサキイカの漁況予測を行いました。

漁況予報の概要

対象魚種:ケンサキイカ秋季来遊群(秋季:9月~12月)

対象漁業:イカ釣り漁業(5トン未満船、5トン~30トン船)

対象地区:出雲地区(松江~出雲)、石見地区(大田~益田)、隠岐地区(島前~島後)

漁況予測:1日1隻当りの漁獲量は、不漁であった前年と比べて、出雲地区では同程度、石見地区および隠岐地区では下回り、不漁前の平成30年以前の水準には及ばない。

予測に関する情報

①日本海南西海域における資源状況

秋季に山陰沿岸に来遊するケンサキイカ(秋季来遊群)は、来遊前は日本海南西海域の大陸棚上に広範囲に分布しています(図1)。

夏季(8月)に九州から山口沖で浜田の沖合底びき網漁業(以下「浜田沖底」)により漁獲されるケンサキイカは、秋季(9月~12月)に沿岸域に来遊するものと同じ資源と考えられています。実際、浜田沖底とイカ釣り漁業でのケンサキイカの漁獲状況には強い関係性がみられます(図2)。

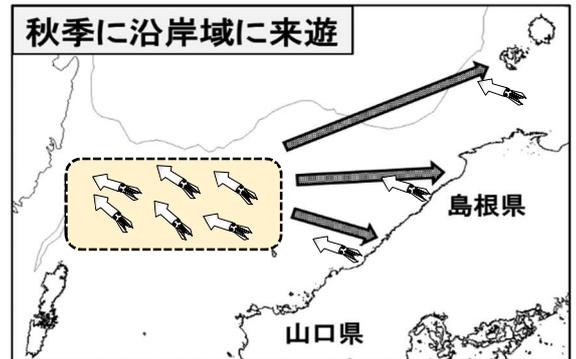


図1 秋季におけるケンサキイカの来遊イメージ。大陸棚上に分布していたケンサキイカは秋季に沿岸域に来遊する。

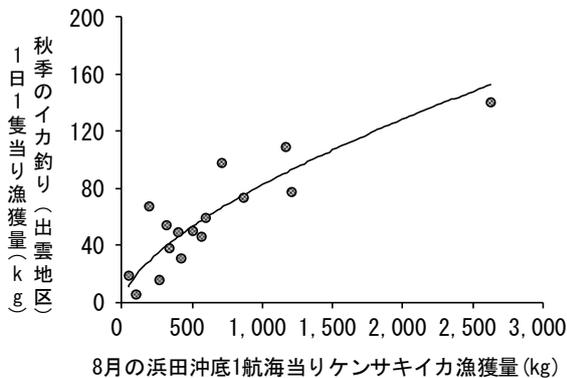


図2 浜田沖底(8月)とイカ釣り(秋季、出雲地区)の漁獲状況の関係性。浜田沖底で漁獲されるケンサキイカの量が多いとイカ釣りの漁獲量が多い関係にある。石見地区と隠岐地区も同様の関係がみられる。

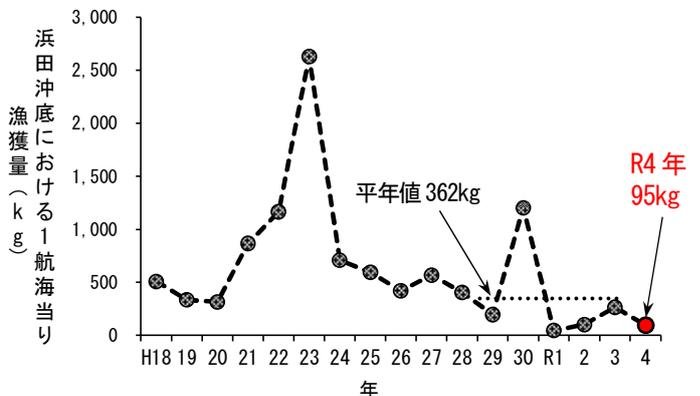


図3 8月の浜田沖底における1航海当りケンサキイカ漁獲量の推移

令和4年の8月の浜田沖底における1航海当りケンサキイカ漁獲量は95kg(図3)で、平成18年以降で最低値であった令和元年(44kg)に次いで低く、平年値(平成29年~令和3年の5年平均:362kg)を下回りました。このことから、令和4年の秋季に沿岸域に来遊する前の日本海南西海域のケンサキイカの資源状況は、近年同様の低い水準にあると考えられます。

②高水温帯の分布状況

ケンサキイカは暖水域を好むイカ類であり、好適な水温帯の分布状況が漁場形成に影響します。秋季の山陰沿岸では、水深100m層に22℃以上の高水温帯が広範囲に分布する場合、ケンサキイカは好漁となり、22℃を下回ると不漁となる傾向がみられます(図4)。

令和4年の秋季の水温分布予測(図5)を見ると島根県沿岸には22℃以上の高水温帯があまり広がらないことから、ケンサキイカの漁場形成には適した状況ではないと考えられます。 ※使用した水温データは「拡張版日本海海況予測システム JADE2」から入手

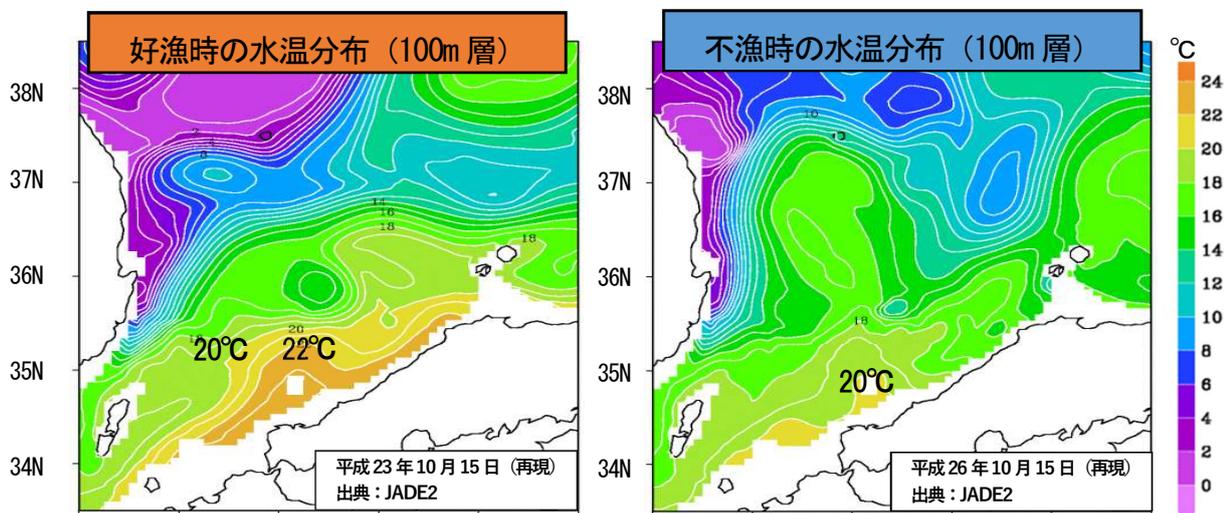


図4 ケンサキイカ的好漁時と不漁時の水温分布(水深100m層)の比較。好漁時(左図)には、沿岸に高水温帯が広範囲に広がる。

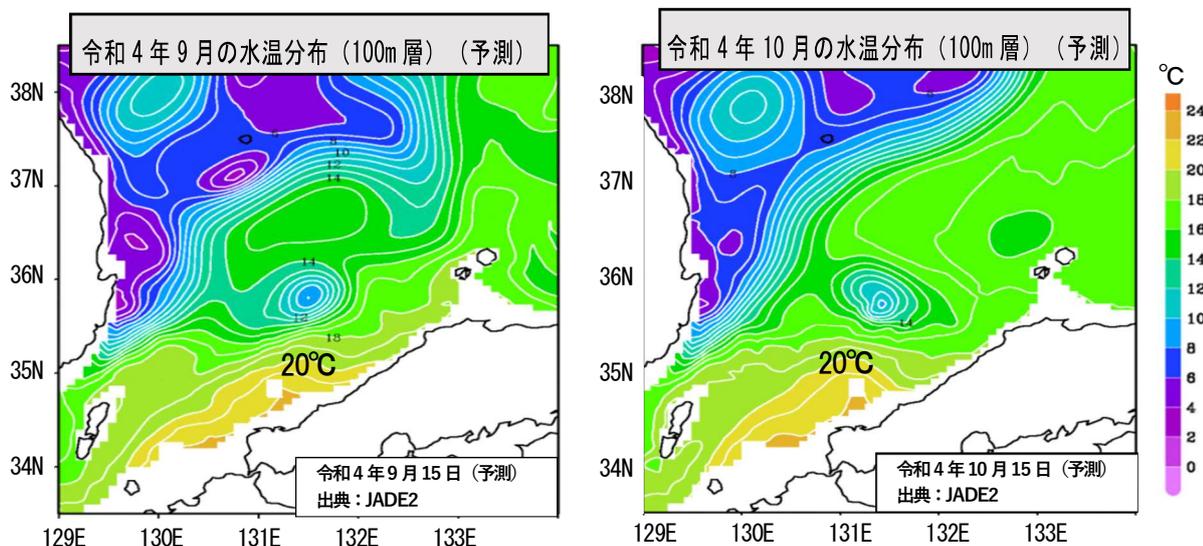


図5 令和4年の秋季の水温分布の予測図(水深100m層)。9月(左図)、10月(右図)とも高水温帯があまり広がらないと予測されている。

ケンサキイカの漁況予報

令和2年の予測までは、「①日本海南西海域における資源状況」と「②高水温帯の分布状況のデータ」から各地区の秋季（9月～12月）におけるイカ釣り漁業（5トン未満船、5トン～30トン船）の1日1隻当りの漁獲量を予測していました。しかし、近年山陰沖へのケンサキイカの来遊を左右する要因が変化した可能性があり、これらの関係性を利用した従来の手法では上手く予測ができなくなりました。

そこで令和3年に予測手法の見直しを行い、「①日本海南西海域における資源状況」（＝8月の浜田沖底の1航海当りケンサキイカ漁獲量）と各地区のイカ釣り漁業の1日1隻当りの漁獲量の新たな関係性（図2）から、以下のとおり各地区の今後の状況を予測しました（図6）。

【出雲地区（松江～出雲）】

令和4年9月～12月の1日1隻当りの漁獲量は約18kgと予測され、不漁であった前年（16kg）並みであり、不漁前の平成30年の水準には及ばないと考えられます。

【石見地区（大田～益田）】

令和4年9月～12月の1日1隻当りの漁獲量は約21kgと予測され、不漁であった前年（31kg）を下回り、不漁前の平成30年の水準には及ばないと考えられます。

【隠岐地区（島前～島後）】

令和4年9月～12月の1日1隻当りの漁獲量は約16kgと予測され、不漁であった前年（25kg）を下回り、不漁前の平成30年の水準には及ばないと考えられます。

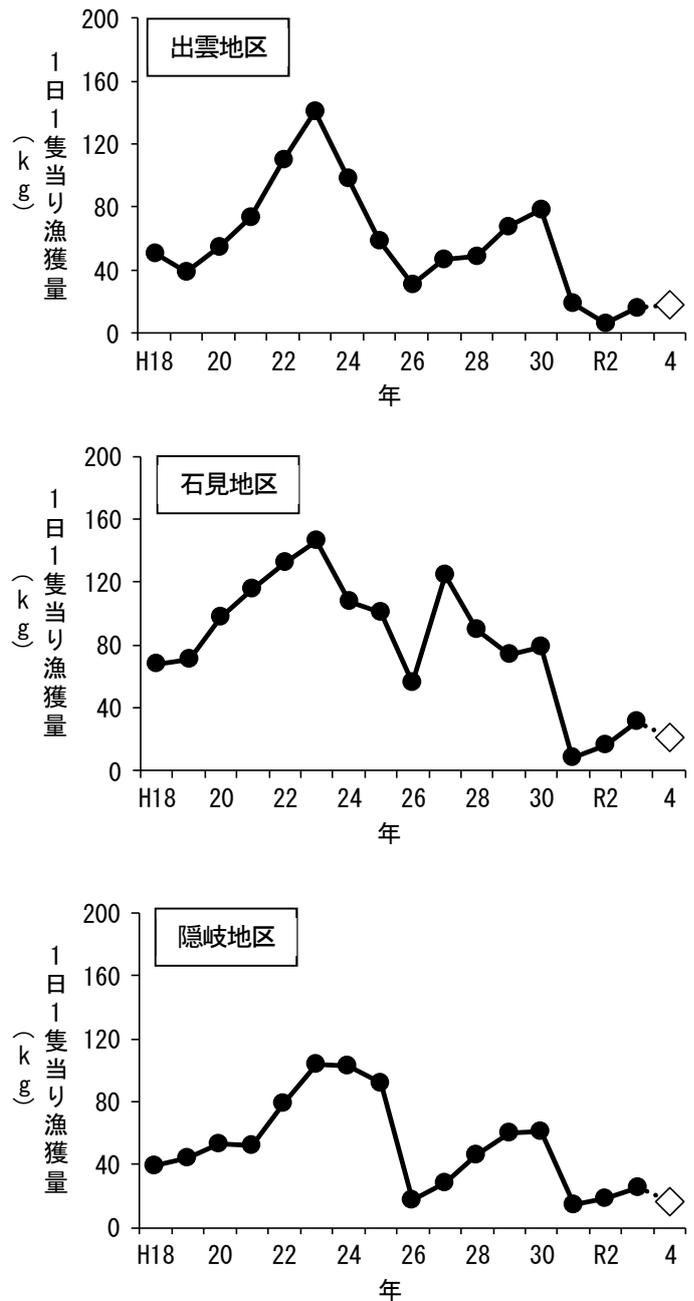


図6 各地区のイカ釣り漁業における1日1隻当りの漁獲量（9月～12月）の推移。令和4年は予測値。